

2020(令和二)年度 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：CRC 宇宙線将来計画研究会 英文：CRC workshop for future plans in cosmic ray research
研究代表者	荻尾彰一（大阪市立大学大学院理学研究科教授）
参加研究者	伊藤好孝（名古屋大学宇宙地球環境研究所教授） 常定芳基（大阪市立大学大学院理学研究科准教授） ほか CRC 会員および関連分野研究者
研究成果概要	<p>宇宙線研究分野の将来計画策定のために、CRC（宇宙線研究者会議）が母体となり、また ICRR と連携して、これまで毎年将来計画のシンポジウムを開催してきた。特に 2011 年度からの活動は、</p> <p>CRC 将来計画検討小委員会（2011-12 期）最終報告（2013 年 9 月 6 日） CRC 将来計画検討小委員会 2013-2014 年度報告書（2015 年 10 月 19 日） CRC 将来計画検討小委員会 2015-2017 年度報告書（2019 年 3 月 16 日）</p> <p>にまとめられている。</p> <p>2020 年度は、通算第 17 回目の研究会（呼称：CRC タウンミーティング）を 2020 年 9 月 18、28、29 日（参加者数：各日平均 140 名余り）に、第 18 回目の研究会を 2021 年 3 月 30 日（参加者数：各日平均 160 名余り）に、それぞれ zoom を使ってオンライン開催した。移動の不要なオンライン開催ということで、例年（90 名程度）を遥かに上回る参加者数となり、盛会となった。</p> <p>第 17 回は、「最高エネルギー宇宙線」、「高エネルギーニュートリノ」、「地上ガンマ線観測」、「SK-Gd/Hyper-Kamiokande」の 4 セッションで構成し、各セッションには理論レビューと実験・観測計画をセットで配置した。</p> <p>第 18 回は、「MeV ガンマ線観測の将来」および「マスタープラン 2023 への対応」という 2 つのセッションで構成した。日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会がマスタープラン 2023 へ向けた活動を開始したことを受けて、分科会の活動方針、タイムスケジュール、さらに CRC としての今後の対応、などが議論された。2021 年度はマスタープラン 2023 への対応を軸に活動が継続される予定である。</p> <p>なお 2020 年度に申請した共同利用費は、コロナウイルス感染拡大の影響により全く利用されなかったため、2021 年度に繰越されている。</p>
整理番号	K01